

## 弘前学院大学社会福祉学部専任教員 2020年度の研究業績\*

\*：以下においては、2021年度現在の本学部専任教員が2020年度（2020年4月～2021年3月）に発刊・発表した研究業績（但し、編著書、学術論文、口頭発表のみ）を掲載する。掲載内容は各自の自己申告に基づく。また、掲載の順は五十音順である。

## 大野拓哉（教授）

著書、学術論文等の名称	単著・共著等別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
【学術論文】 スクールソーシャルワークとスクールソーシャルワーカー—「機能」と「担い手」の分離、あるいは、「権利擁護」の普遍化のための一試論—	単著	2021年3月	『弘前学院大学社会福祉学部研究紀要』第21号 1～16頁

## 小川幸裕（教授）

著書、学術論文等の名称	単著・共著等別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
【編著書】 福祉課題への挑戦～青森の未来へ～	編著	2020年8月	泰斗社、「第8章 地域をフィールドに活躍する専門職」87～101、「第9章 司法と社会福祉の連携」102～113
【学術論文】 1. 法定後見活動におけるソーシャルワークアドボカシー活動の射程—「財産管理」「身上監護」「法律行為に付随した事実行為」の関係から—	単著	2021年3月	『弘前学院大学社会福祉学部研究紀要』第21号 17～35頁
2. 1960年代以降のアメリカにおけるアドボカシー概念の変遷—わが国の法定後見活動におけるアドボカシープロセスの分析項目の抽出を目的に—	単著	2021年3月	『北星学園大学大学院論集』第12号 1～17頁
3. 法定後見活動におけるソーシャルワークの視点にもとづくアドボカシーの有効性—アドボカシー概念における専門職アドボカシーの位置づけの分析から—	単著	2021年3月	『弘前学院大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学研究』第9号 81～99頁
4. わが国の法定後見活動におけるアドボカシー概念の有効性—アドボカシーの定義の内容分析から—	単独	2021年3月	『北海道地域福祉研究』第24号 15～21頁
【口頭発表】 独立型社会福祉士による法定後見活動の構造	単独	2021年9月	日本社会福祉学会第68回秋季大会

## 駒ヶ嶺裕子（講師）

著書、学術論文等の名称	単著・共著等別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
【学術論文】 ひきこもり支援におけるアウトリーチからみえたもの—困難を抱える若者の調査結果を踏まえた鹿角市社会福祉協議会の取り組み—	単著	2021年3月	『弘前学院大学社会福祉学部研究紀要』第21号 36～45頁

## 高橋和幸（教授）

著書、学術論文等の名称	単著・共著等別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
【学術論文】 1. 積極的に外部からの担い手を受入れ除雪ボランティアを通じた交流を低予算で実現している取組の事例検討 2. 豪雪地域における障がい児・者の除雪ボランティアの実態と普及に向けての課題 —基礎調査結果より—	単著  共著	2021年3月  2021年3月	『弘前学院大学社会福祉学部研究紀要』第21号 46～69頁  『弘前学院大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学研究』第9号 61～80頁 * 高橋和幸、吉岡利忠
【口頭発表】 1. 障害児・者による除雪ボランティアの活動実態に関する基礎的調査の報告	単独	2020年11月	日本雪氷学会・日本雪工学会『雪氷研究大会(2020・オンライン)』（会場：新潟大学代替オンライン開催）

## 松本郁代（教授）

著書、学術論文等の名称	単著・共著等別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称
【学術論文】 『東北更新會山形県支部概要』をめぐる		2021年3月	『弘前学院大学社会福祉学部研究紀要』第21号 70～76頁